

たじみ議会だよりのタイトルロゴを 寄贈いただきました

市民の声を形に（しみんのこえをかたち）

「たじみ議会だより」の「議会」の部分に、「しみんのこえをかたち」とめっせ一字をいただきました。杉浦さんからの議会に対する思いが込められています。

いただいためっせ一字を真摯に受け止め、市民の皆さまからいただいた声をより良いまちづくりに反映させられるよう、議員一同取り組んでまいります。



(左奥から) 仙石三喜男議会運営委員会委員長、佐藤信行広報広聴研究会会長、
寺島芳枝副議長、玉置真一広報広聴研究会副会長
(左手前から) 嶋内九一議長、杉浦誠司さん

令和2年12月21日、タイトルロゴの寄贈式を執り行い、杉浦さんから嶋内議長へタイトルロゴが寄贈されました。

寄贈式では、杉浦さんから「わたしのめっせ一字が政治に関心を持っていただくきっかけとなればうれしい」とのお言葉をいただきました。

また、市議会の広報活動に多大なる貢献をしていただけたことに感謝の意を表し、杉浦さんへ嶋内議長より感謝状を贈呈しました。

多治見市観光大使

文字職人 杉浦 誠司さん

多治見市在住

漢字をひらがなのめっせ一字で表現する文字職人
筆を通じて人々に夢と笑顔を与えている。

めっせ一字のほかに、小中学校や企業向け講演会の講師、巨大書き下ろしのパフォーマンス、書籍の出版など、日本全国で幅広く活躍されている。



～たじみ議会だよりのタイトルロゴの寄贈にあたって～

このたび、たじみ議会だよりを担当する広報広聴研究会の会長を務めさせていただくにあたり、皆さまに議会をもっと身近に感じてもらえるような取り組みをしたいと考えました。

特に全戸配布される議会だよりは、「誰にでも手に取ってもらえるような魅力あるものにしたい、これまであまり興味関心のなかった方々にも読んでもらいたい」という思いがありました。それと同時に、令和2年度は新型コロナウイルスの出現によって、生活が一変し、不安を抱えながら日々を送る事態となっております。

そこで、「コロナ禍において、めっせ一字でたじみに元気をお届けしたい」と、多治見市観光大使であり、夢と笑顔を与えてくださる文字職人の杉浦誠司さんに相談をさせていただいたところ、私の思いにご共感いただき、たじみ議会だよりのめっせ一字を寄贈してくださることになりました。

長い歴史のあるたじみ議会だよりが、杉浦さんのめっせ一字によって、より多くの方に手に取ってもらい、多くの方に夢と笑顔をお届けすることができることを願っております。



広報広聴研究会
会長 佐藤信行